



Tomigaoka High School
Established 1987

号外
 創立30周年記念号
 平成29年3月1日(水)
 〒631-0088 奈良市二名町1944番12
 TEL.0742-46-0017
 印刷 株式会社 明新社
 TEL.0742-63-0661 (代)

登美ヶ丘高校新聞

～祝 創立30周年～



創立三十周年を
迎えて

校長 池田 晶雄

本校は、初代校長亀井教育先生のもと、昭和六十二年四月に奈良県立短大にて第一回入学式を挙行し、「二十世紀最後の奈良県立高等学校」として地域の方々のご期待を背負い、スタートしました。亀井先生の教えと本校生徒への期待は今でも脈々と受け継がれ、歴代の校長先生をはじめ、教職員や校友会の皆様、また同窓会、後援会、更に登美会の皆様のご尽力とご支援により、社会の各方面で活躍している人材を輩出でき、地域の方々から高い評価をいただいております。

創立二十周年の記念式典後の平成十八年度から今年度に至る十年間を振り返ると、平成十八年度に、文部科学省から「スーパー・イングリッシュランゲージ・ハイスクール(略称セルハイ)」の指定を受け、最先端の英語教育法を研究開発することになり、生徒の英

語力を高め、国際社会に貢献できる人材作りに邁進しました。この指定研究の中から実現されたのが「オーストラリア語学研修」でした。幾度となく県教育委員会とも話し合っており、ついに実現に漕ぎ着けたと聞いています。第一回は参加生徒が十八名で、引率教員が二名であり、数々の失敗とそれ以上の成果をあげながら、日本に帰ってきた際には教員も保護者も安堵とともに歓声をあげたと記されています。その語学研修も今年度で第十回目を迎えます。すっかり本校の特色ある取組の一つとして定着し、この語学研修に憧れて入学してくる生徒もいると聞きます。たまた二週間の研修ですが、帰国後の生徒の成長は本当に素晴らしい、大学では非、語学を更に勉強し、社会に出てグローバルに活躍したいという希望を口にする参加生徒も多く、今後も数々の課題を克服しながら、継続したいと願っています。

平成二十一年には「道徳教育推進実践事業」の指定を受け、明るくあいさつができ、人権意識を根底に人に優しく温かい学校風土が形成されていきます。一方、早朝十五分間の「ベジック・タイム」の設定や検定・資格試験の積極的な挑戦など、学力の向上と進路実現を目指した取組も始まり、文武両道を標榜し「更なる高みへ」の合い言葉のもと、先進的な取組を進めていただきました。

そして、二昨年から二年間、教育課程研究指定校として「総合的な学習の時間」の新たな取組を新しい学力観に基づいた学校改善の柱として実践してきました。文部科学省の田村学視学官の御指導のもと、郷土奈良を題材として生徒各自の興味や関心に基づいた研究課題を設定し、大学の先生方のサポートを受けながらフィールドワークやプレゼンテーションを行いました。この指定研究で学んだ手法はアクティブラーニングによる授業展開や、生徒を主体にした学校行事のあり方にまで及び、まさしくこれまでの本校教育を大きく発展させるものとなりました。

更に学力の向上と高いレベルの進路実現を目指して、授業時間の確保のために単位時間を増加させたこと、二学期の開始を八月

謝辞

創立三十周年記念事業
実行委員長
廣瀬 庸介



この度は学校・育友会・登美会・同窓会が丸となり三周年記念事業を行い、第一弾として九月二日・三日に登美高祭、六日には記念コンサートが行われました。

そして本日、多くの皆様に祝福のお言葉を賜り、創立三十周年記念式典を開催することができ、誠にありがたく、心より感謝を申し上げます。

昭和六十二年に産声を上げ、奈良市船橋町の仮校舎からスタートして三十年が経ちました。六千余名の卒業生が色んな場所で、さまざまな形で活躍されていることを嬉しく、そして誇りに思っています。また、在校生の皆さんも勉学・部活動共に頑張る、登美

中に設定したこと、一年生の英語と数学の授業の一部を少人数クラスにしたこと、それまでの「ベジック・タイム」を「チャレンジ・タイム」と名付け、「自ら考え、判断し、表現する(行動する)」力を育成する教科横断的な学習の時間の設定など、「明るく、たくましく、ひたむきに生きる」本校の生徒像に一步でも近づこうと教職員が一丸となって日々の教育活動に全力を傾けているところでありました。

このような学校作りの中で、昨年来、私は、ことあるごとに、生徒たちに「一人一人が居場所のある学校」「一人一人の将来、未来が拓ける学校」を先生方と一緒に作ろうと呼びかけています。とりわけ学校に適応できないで苦しんでいる生徒が増えつつある現状、あるいは「いじめ」などの問題が大きな社会問題となっている現状を何とか改善するために、教育相談体制を充実させ、人と繋がっていきける集団作りに力を注ぎつつ、「社会で生き抜く力」を育てようという丁寧な生徒と教員の関係、保護者と教員の関係、生徒同士の関係を構築しようとしています。その実践として、本校では、入学式をはじめ、オープン・スクール等で、そして本日の記念式典も、受付、誘導、案内、そして司会まで生徒が担っています。私は本校生徒ならきつとこのような大きな役割も見事にやってくれたのだと信じています。そのような教育を積み重ねてきたという自信があります。本校の自慢は紛れもなく、生徒たちです。

私達は、創立三十周年を契機として次の十年間に向けて、生徒たちを主役にした「未来の虹」を架けようとしています。けっしてうたかたの虹ではなく、永久に光り輝く虹にしたいと決意しています。

終わりに臨み、創立三十周年を迎えるにあたり、本校に寄せられました関係各位のご厚情に衷心より感謝申し上げます。

(記念式典式辞より抜粋)

ヶ丘高校の名を全国に広めてくれることは大変喜ばしい限りです。

この三十周年を一つの節目とし、標語にも掲げられた「未来につなごう 笑顔あふれる学舎」を実践すべく、この登美ヶ丘高校に携わった誰もが、笑顔という絆で繋がり、これまで築きあげられた輝かしい三十年という歴史を未来へ繋ぎ、更なる発展を遂げることを祈念いたします。

最後に記念事業にかかりを持っていただくことは大変光栄である一方、私自身、遠方に住んでいる事から、記念行事遂行にあたり、打ち合わせや細かい準備・連絡等も周囲の方々に任せきりだったことをお詫言すると同時に、この場をお借りして、実行委員の皆様、顧問の池田校長はじめ、教職員の皆様、育友会、登美会、同窓会、在校生の皆様にも多大なるご尽力を賜りましたこと、深く御礼申し上げます。

本校の益々の発展と皆様のご健康とご多幸を祈念して御礼の言葉とさせていただきます。

誠にありがとうございました。

平成二十八年十一月十四日

登美ヶ丘高等学校校歌

作詞 島井 真実
作曲 藤野 真実

一 生駒を仰ぐ この丘の 熱ゆる希望の 学舎に
鼓の心 求めゆく 雲に行き交う 風のように
仲間を仰ぐ 若人よ ああ われら 登美ヶ丘高

二 富雄の川の色をみて 高き理想の 学舎に
鼓の心 求めゆく 雲に行き交う 風のように
光輝く 若人よ ああ われら 登美ヶ丘高

三 夢を望む 吉き地の あふるる誇りの 学舎に
鼓の心 求めゆく 大地に生きる 草のように
鼓の心 求めゆく 大地に生きる 草のように
鼓の心 求めゆく 大地に生きる 草のように



登美ヶ丘高等学校30周年記念歌
僕らのうた～未来にかかろう～

作詞 記念ソング制作委員会
作曲 藤野 真実

「おはよう」で醒めた朝 眠たい目を
こすりながら 長い長い階段を 今日まで歩いてゆく
アトに小さく描いた夢 なんだかばかりになってきて
チャイムと同時に聞こえたんだ
君(サビ) 一人一人が主人公 この舞台(ステージ)で誰かが輝く
シナリオなんてない 自分だけの色の虹になる

「きよなら」で静まる教室 ユニフォームに
着替えたなら 雲(あお)く美しい空と 今日(い)まを駆け抜けてゆく
輝きはケンカし出したよ 高い丘を乗り越えるために
仲間と手と手を繋いでんだ
君(サビ) おとなになったら笑ってたくらう
あぁすれば良かったと後悔しても 青春は夢でこないから
今しかない時間(とき)を楽しもう
変わり続ける30年(ひび)の中 この歌を口ずさみ
前に進んでゆく 出がってゆく未来虹になる
君(サビ)



創立30周年記念式典
平成28年11月14日
奈良県立登美ヶ丘高等学校

式次第

【第1部】

- 開会式
- 国歌・校歌斉唱
- 学校長式辞
- 来賓祝辞
- 来賓紹介・祝電披露

【第2部】

- 創立30周年記念ソング披露
- 創立30周年記念映像披露
- 生徒代表式辞
- 閉会式



登美高30周年
～未来につなごう～

笑顔あふれる学舎～




決意表明

在校生代表
永松 蒼太郎




創立30周年記念コンサート

～清塚信也氏来る～




創立30周年記念事業として、9月6日(火)奈良県文化会館国際ホールで、「創立30周年記念コンサート」が開催されました。演奏者としてお迎えしたのは、ピアニスト清塚信也氏です。清塚氏は現在、クラシックコンサートでの演奏活動を軸に、CD、映画、テレビドラマ、TV-CFの分野でも多彩な活動を展開していらっしゃる方です。ソロ演奏を楽しませていただいただけでなく、本校吹奏楽部との共演もあり、忘れられない貴重な体験となりました。

平成十八年、けいはんな新線が開通して、学研奈良登美ヶ丘駅が開設され、イオンモールが開店した年に、この体育館で登美高二十周年の式典が行われました。あれから十年が経とうとしています。

あの日、在校生代表の八島圭亮さんは、「二十年の歴史は、登美高をよりよくするために積み重ねてきた時間だ。」と語っています。その言葉のとおり、我が登美高は、その後の十年も成長を続け、地域に誇る学校として、本日三十周年の記念すべき日を迎えました。

ある先生の言葉を借りりますが、歴史とはドラマであると思います。毎日が当たり前のように、「おはよう」で始まり、「また、明日！」で過ぎていく。そうして積み重ねてきた登美高の三十年の歴史はドラマであり、そこで日々を過ごす私たちにも一人一人のドラマがあります。一人一人が思い描いた夢を追い、仲間と共に切磋琢磨した日々があります。

私は、登美高に入学する前に、フレッシュマンミーティングという行事で、先輩から登美高生としての過ごし方を教えていただきました。入学後、サッカー部と生徒会に所属し、先輩から様々なことを教えていただきました。そして、先輩だけでなく同級生から様々なことを学びました。

現在二年生となり、今度は伝える側として様々な活動に参加しています。その活動で得たものは大きく、これが先輩から後輩へつないでいくよき伝統となっています。

今日、この場にいられている皆様と登美高三十周年を祝いたいと思います。

「登美高三十年、笑顔あふれる登美高生は、四十年に向かって、前進することを誓います。」

今、登美高生が求められていることは、自分自身が持つ力を最大限に引き出すことだと考えます。そのためには、目まぐるしく移り変わる世の中で、失敗を恐れず、何事にも「挑戦すること」を一人一人が勇気を持って進めていくことが大切です。

私たちは、総合学習「優」の二環として行ったフィールドワークやプレゼンテーションにおいて、大学の先生方や様々な方面の方々から教えを受けたり、同じ班の仲間とのコミュニケーションをとることで、自分の考えとは違う意見を得たり、柔軟な考え方を身につけることができました。そして、価値観の多様性を学びました。

学習の中で、わからなかったことがわかるようになる喜び。部活動を通じて、できなかったことができるようになる喜び。時間をかけて多くのことに悩み、苦労を重ね、時には仲間と協力したことが喜びになる瞬間があります。そのことが自分自身の人間力の向上につながるかと確信しています。

今日この瞬間より、自分も含めてここに集う二・八・二九三十期生の七・一六名が、登美高、そこに集う先生方、保護者の方々、地域の方々、そして六六六九人の登美高を築立っていった先輩たちへの感謝を込めて、未来への挑戦の気持ちを発信していこうではありませんんか。